

# 所長、八木三男さんを偲ぶ

長崎 明



八木さん、あなたは私より十歳余も若いのに、どうしてそんなに先を急いだのですか。昨今の社会情勢とりわけ教育情勢から見て、県民教育研究所長としてのあなたの役割がますます重大になってきたというのに、本当に惜しい人をなくしてしまいました。

あなたが亡くなったことを聞いて、耳を疑いつつも、真つ先に浮かんだのは、煙草をくゆらしているあなたの温顔と瞳でした。それは穏やかさの中にも的確に未来を見通す自信に輝いていました。

今から二十数年前、新潟県で初めての会員制教育研究所を創立しようと、あなたを中心とする数人の方が、拙宅で打ち合わせをしたことがありました。ちよ

うど定年退職直前で多忙を極めていた私は、上の空ながら、皆さんの熱情に圧倒されてしまいました。その時から、あなたが会のまとめ役、私が会の代表という体制が存続され、現在の研究所を築くことができました。また、革新無党派の知事候補としての私の選挙運動の時には、あなたは県政の立案に優れた力量を発揮して下さいました。私の知事選挙は三年おいて二回にわたりましたが、常にあなたの縁の下の力持ちに支援されるところが大きかったと、今更のように心から御礼申し上げる次第です。

管理職ゆえに対談相手を煙に巻くため一日四十本も吸っていた私でしたが、三十数年前に喫煙が体に良くないと知って、ぶつつりと止めました。当時の私以上にヘビースモーカーのあなたにも禁煙してもらえればと願っていたのですが、会議の休憩時間中に本当にうまそうに煙草を吸うあなたに、「止めよ」とは遂に言えませんでした。煙草を減らせれば幾らかでも長生きできたのではないかと思うにつけ悔しくてなりません。のんびりと煙草をくわえながら三途の川を渡るあなたの姿を思いやる今日この頃です。

（ながさき あきら・にいがた県民教育研究所理事長）